こまえスポーツフェスタ

体育会８団体が参加 競技の楽しさ伝える

小学生が大学生アスリートと一緒にスポーツを体験する「こまえスポーツフェスタ2025」が7月5日、狛江市民総合体育館で開催された。専修大学スポーツ研究所（佐藤満所長）、体育会、文学部・斎藤実ゼミの学生らが協力し、さまざまな競技の楽しさを伝えた。

スポーツ研究所が2023年に狛江市教育委員会とスポーツや教育分野に関する連携・協働に関する包括協定を締結したことをきっかけに同イベントに協力。3年目となる今年は、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、ボクシング、陸上競技、レスリングの8団体が体験教室を開いた。

【陸上（かけっこ）】たすきをつけてリレー対決

市内在住の小学生が「マルチスポーツ」をテーマに、複数の競技を体験した。ボクシング教室にはパリ五輪日本代表の原田周大さん（法4）も参加。「みんなと一緒に体を動かすことを楽しみにしていた」と、ジャブ、ストレート、フックといった基本動作の手本を見せたほか、笑顔でサインや写真撮影にも応じた。

【バスケットボール】小学生と大学生が競技を楽しむ

「陸上（かけっこ）」では、体の動かし方の大切さを伝えた。陸上競技部の平松龍青さん（経済3）は「スポーツが上手な人は、体をどう動かせばいいのかを知っている」と説明。リズミカルにストレッチを行うブラジル体操を、子どもたちと一緒に行った。小学6年生は「習ったことを家でもやってみたい」と語った。最後に、箱根駅伝で実際に使用する「専修大学」のたすきをつけ、大学生と小学生がリレーで対決。白熱した展開に、周囲から大きな歓声があがっていた。

平松さんは「なぜ？という理由を分かりやすく伝えることを心掛けた」と振り返った。

笑顔でサインに応じた原田さん（右）

地域とともに　社会貢献活動

模擬取組で大学生を力強く押す生徒たち

相撲部 × 多摩桜の丘学園 生田キャンパスで相撲体験

都立多摩桜の丘学園（東京都多摩市）の知的障害教育部門中学部の3年生約30人が6月27日、生田キャンパスの相撲道場を訪れ、本学相撲部員の指導を受けながら、相撲を体験した。

相撲部と多摩桜の丘学園は、2019年から相互に訪問し、交流を続けている。

今回は、蒲田勝太監督、栩内陽向さん（商4）、小坂憲史さん（商4）、鈴木覇都さん（経営3）の4人が出迎えた。部員たちは、手本を見せながら生徒たちと一緒に四股を踏むなど、相撲の技術を伝えた。部員同士による迫力ある模擬取組の後は、生徒たちも土俵に入り、部員たちと対戦。部員たちを土俵の外に押し出すと、大きな歓声が上がった。

参加した部員たちは「一緒に相撲を取るのは楽しいし、元気をもらえた」と声をそろえた。栩内さんは「大きな声ではっきりと話すことを心掛けた。教員をめざしているので、素晴らしい経験ができた。部としても大事な活動なので、これからも続けていきたい」と話した。

金融リテラシー講座スタート

投資や貯蓄について、ステップアップ方式で学ぶ「金融リテラシー講座」（全3回）の第1回初級編が8月2日、神田キャンパスで開かれた。

金融知識の基礎を学んだ

講座は、本学など千代田区内大学が加盟する「千代田区キャンパスコンソーシアム」による、地域に対する教育支援活動の一環。当日は、加盟大学の学生や社会人約30人が参加した。

初回のテーマは『ミライ』と『お金』。三井住友信託銀行の担当者が講師を務めた。自身のライフプランの中でお金がかかるものに関しては、収入を得たら使わずに一定額を貯蓄に回す「先取り貯蓄」を勧めた。また、具体的なデータを示しながら分散投資と長期投資の有効性を説明した。

後半では、お金にまつわる身近なトラブルを例示。「お金を使う場合、自分なりの軸を持って向き合ってほしい」と呼びかけた。

第2回は10月4日（土）、第3回は12月6日（土）に開催予定。1回のみの受講も可。

公開講座情報

社会科学研究所公開シンポジウム「労働と社会をめぐる歴史研究の現在とその継承―枡田大知彦の仕事を踏まえて―」
▽日時＝10月12日（日）13～18時
▽場所＝神田キャンパス10号館相馬永胤ホール
▽申し込み不要。参加費無料

政策科学シンポジウム
▽テーマ＝今後の科学技術・イノベーション政策と関係機関の役割
▽日時＝11月7日（金）14時30分～17時30分
▽場所＝神田キャンパス7号館731教室
▽基調講演＝大野英男氏（経済産業省特別顧問〈科学技術担当〉、東北大学総長特別顧問長）
▽受講料＝無料
▽要申し込み

大学院公開講座 商学研究科「中小企業のためのAI／DXによる業務改革入門講座」
▽期間＝11月14日～12月5日（毎週金曜日）
▽時間＝18時30分～20時
▽開催方法＝対面とオンライン
▽場所＝神田キャンパス7号館731教室
▽受講料＝無料
▽要申し込み

【申し込み】

育友会支部懇談会　全国62会場で開催

学業や学生生活を説明

模擬授業や研究紹介も

ご父母・保護者の会である育友会（佐藤信子会長）の支部懇談会が、7月から9月にかけて全国67支部62会場で開かれた。教職員が全国に赴き、学業や学生生活、キャリア形成支援などについて説明し、ご父母・保護者からの相談に応じた。

【長野支部】約50人が出席し、成績通知表の見方や単位について説明を受けた＝8月31日、長野市

今年度は、大学の学びを知ってもらおうと、複数の支部で模擬授業や教員の研究紹介が行われた。8月3日、神田キャンパスで開催された東京A・B・C支部合同懇談会では、商学部の鹿住倫世教授が「起業と経営」をテーマに解説した。質疑応答もあり、普段の授業さながらの活気のあるやりとりが交わされた。

初めて出席した1年次生の保護者は「大学の様子を知ることができた。大学からの丁寧な説明で就職支援に力を入れていることも分かり、参加してよかった」と話した。

◇　◇　◇

広島支部懇談会は8月31日に開催。学生生活に関して「学生の皆さんをサポートする機関はいくつもあるので、何かあったら気軽に相談してほしい」との説明に対し、参加した保護者からは「1人暮らしなので、相談先が複数あるのは安心だ」との感想が聞かれた。

【広島支部】校友として就職活動を振り返った三歩さん＝8月31日、広島市

広島では育友会支部と校友会支部の結びつきが強く、以前からさまざまなイベントを一緒に行ってきた。今回の支部懇談会にも校友会広島支部の役員9人が出席。小林康秀支部長（平8経営・中国放送アナウンサー）がビデオメッセージを寄せたほか、三歩拓さん（平28文・三原市役所）が就職活動について語った。個人面談の時間には、校友会員との懇談もあった。